

横芝の碑

(その八十)

栗山川畔の墓に見る

水子の墓石

旧栗山橋横芝側の堤上の路を上流に向かって進み、すぐ左に曲がって数軒の家並を過ぎますと、右手一帯は広い墓地になっています。この墓地は俗に東町墓地と呼んで、昔、下総その他から移り住んだ人々が先祖の墓も一緒にと移したのがはじめだといわれていますが、それを裏付けるように、墓石としては珍しい水子（みずこ）広

辞苑等によりますと、出産後あまり日を経ない子。間引きなどによって闇から闇に葬られた赤子、等とあります。の墓石が四基並んで建てられていて、他から移したことを教えています。

はかなく断たれた

幼い命

最近、養育不能の出産直後の子を貰い、実子として届けることを仲介

した医師の処置についての論議がマスコミで騒がれ、また、水子地蔵の建立等もあり、淡い命が尊重されてきましたが、つい百年ほど前までは、子供ができても育てることが不可能な場合には、墮胎または産まれた直後にその命を断つ、という残酷なことが公然と行われていたのです。ほとんど葬式も営まれず、家の人々だけで密かに埋められ、お盆やお彼岸にも餓鬼（がき）精霊などと呼ばれ、一般の仏様には据え膳にお供物が供えられ、餓鬼精霊は簡単な皿などで一段下に供えられたりした、という事です。こどもさんのことを「がきども」などと蔑むのはそんなところからきているのかも知れません。もちろん墓石などの建てられることはほとんど考えられません。もしあっても、極めて数少

ない豪商が大地主の家などだけだったと思います。

写真はその墓石で、向かって右側の石には、蓮の花を持った地藏尊が中央に、左右に春夢童子、明和七（一、七七〇）寅二月十七日。

その次の石には中央頂部に梵字、その下には貞光信女、泡幻童子各位、安永六年（一、七七七）西八月。次の石には中央頂部に梵字その下には妙花信女、文化九年（一、八一二）申三月、曉露童女、文化三年（一、八〇五）。最左端の石には中央に錫杖（しゃくじょう）僧侶が持ち歩くつえ）を持った地藏尊と、矩月童子、安永十年（一、七八一）辛丑四月などとそれぞれ刻まれています。

童子・童女の戒名の冠頭の文字は、春夢・泡幻・曉露・矩月などと、はかなく消え去って逝った幼児を葬る文字で、中央二基の信女の戒名は、おそらくその母親のものと思われる。刻まれている戒名や年号から見ましても、始めか

らここに並んで建てていたものではないことが推定できます。

縁者の繁栄祈る

四基の水子墓石

ここに住みついた人達が、その先祖の墓所をここに移してから幾星霜、闇から闇へと葬り去られ、ついには無縁仏となってしまうことも多かった幼い命の中から、縁者の甲斐性宜しきを得たためにその存在が残され、供養にも恵まれた四基の墓石は、明和、安政時代からの縁者がここに移り住み、身近に墓を移した祖先崇拜の精神と歩んで来た歴史を伝え、そしてその繁栄を祈っているのかも知れません。

（本稿取りまとめには、岩波の広辞苑および学研の百科辞典等を参考にしました。）

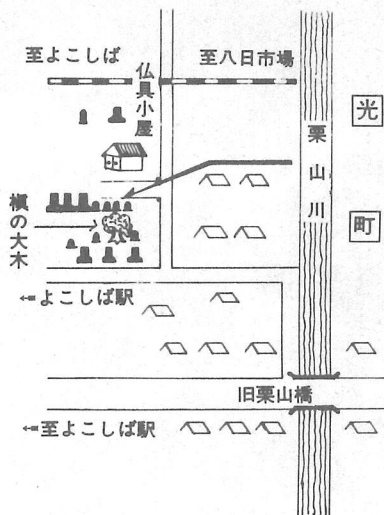
町文化財審議会委員

小沢春光氏寄稿



▲はかなく消え去った嬰兒や幼児を葬う四基の墓石

案内略図



気候風土に合った消夏法

なるべく自然の気温の中で涼しく過ごすふうをしてみたいかがでしようか。

①汗をよく吸う布地で、熱を発散しやすいデザインの服や、



ゆったりとした体をしめつけない服などで。また、外出のときはノーネクタイ、ノー上衣で。

②強い日射をさけるには、すだれやよしずをかけた後、朝顔を育てたり、藤だなやヘチマだなを作ったりは。